

科目名	多職種連携特論		D3-201	担当教員名	和佐 勝史
単位数	1単位		必修	配当年次	1年次・第2 Semester(後半)
曜日・時限	土曜日・3限目		教室	視聴覚大講義室	
授業概要	多職種連携は、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師など様々な職種が1つのチームをつくり、それぞれの専門性を活かしながら患者の治療に当たる医療の形態で、近年その重要性が注目されている。本授業では、前半は講義形式で栄養サポートチーム(Nutrition Support Team, NST)での実例および学生自身の経験をもとに多職種連携の意義および各職種の役割を理解する。後半はPBL(Problem-Based Learning)形式で、実際の症例をもとにグループ間で議論し、各職種がどのような役割をもってチーム医療を実践すべきか、また医療安全から見た多職種連携の意義を理解する。				
到達目標	1) 多職種連携の目的、内容、意義を説明できる。 2) チーム医療としての各職種の役割を説明できる。 3) 臨床例において、チーム医療の治療計画を作成できる。 4) チーム医療が医療安全にどのように貢献するかを説明できる。				
回	日程	見出し	内 容		実践的な授業方法
1	12/4	多職種連携とは	多職種連携の目的、内容、意義を実例を中心に講義する。 [実務家教員による授業]		○
2	12/11	各職種の役割	多職種連携において、各職種がどのような役割をもって治療に貢献しているかを栄養サポートチーム(Nutrition Support Team, NST)での実例をもとに講義する。[実務家教員による授業]		○
3	12/18	自己体験から見た多職種連携	学生自身が経験したチーム医療体験を発表、討議することで、多職種連携への理解を深める。[実務家教員による授業] [グループディスカッション]		○
4	1/8	多職種連携の在り方(1)	臨床の現場で経験する症例をもとに、各職種がどのような役割をもってチーム医療を実践すべきかをグループ内でまとめ、それを全体で討議することで、多職種連携の在り方を理解する。 [実務家教員による授業] [グループディスカッション]		○
5	1/15	多職種連携の在り方(2)			○
6	1/22	多職種連携と医療安全(1)	臨床の現場で経験する症例をもとに、各職種連携が医療安全にどのように寄与するかをグループ内でまとめ、全体で討議することで、医療安全から見た多職種連携の意義を理解する。 [実務家教員による授業] [グループディスカッション]		○
7	1/29	多職種連携と医療安全(2)			○
8	2/5	総括	これまでの講義、討論の内容をもとに、各自が考える多職種連携について総括する。[実務家教員による授業] [プレゼンテーション]		○
キーワード		多職種連携、チーム医療、医療安全		履修条件	なし
教材等	教科書(要事前購入)	教科書は特に指定しない。講義で使用する資料は適宜配付する。			
	参考書(任意購入)	設定しない			
成績評価方法(%) [評価のポイント]		①討議・発表内容(50%)、②レポート(50%)で評価する。[①授業への前向きな参加、②授業内容への理解を踏まえ、自分の考えを表現できているかを評価します。]			
授業時間外に必要な学修		多職種連携に関する自らの経験、自施設の状況を事前に確認しておいてください。			
学生へのメッセージ		積極的に授業に参加くださることを期待しています。			

※ 授業の日程については変更する場合があります。